

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	徳 島 県
-------	-------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	鳴門市林崎小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	20
児童数	60	65	68	56	52	71	6	378	

研究の概要

1. 研究主題

**考える力を育てる学習指導**

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

5年生・6年生算数  
 児童の理解の状況に差が出やすい教科, 学年であるため。  
 3年生・4年生算数  
 児童の理解に差が教科, 学年であるため  
 1年生・2年生算数  
 これまでの研究成果と児童に対する実態調査の結果から, 実施学年の枠を広げ, 研究に取り組むため。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p style="text-align: center;">テーマ 確かな学力の定着をめざして</p> <p>研究の見通し(仮説)                  算数科は内容の系統性が明確であり, それまで学習してきたことを基にし, それをさらに発展させるようにして学習を進めていくことが多い。そのため, ある単元が確実に理解できていないと, その後, 発展した学習を続けることが困難である。そこで各学年での基礎・基本を確実に身につけなくてはならない算数科の学力定着を図ることとした。                  また, 銀林浩氏の「算数・数学における理解」によると, 下学年の児童は「できる」ようにならなくては「わかった」と感じない。また, 中学年では, 「できる」ようにならなければ「わかった」と感じない児童と「わかった」と感じればたとえできなくても満足感を感じる児童が混在する時期である。さらに, 上学年では「わかった」と感じればたとえできなくても満足感を感じる児童が多くなることを述べている。                  そこで, 数量や図形の基礎的・基本的な技能について「できる」と感じさせることがすべての児童に対して学力の向上につながると考えた。そのため繰り返し反復練習をすることや細かなステップの教材を作成して学習を進める。</p> <p>研究の内容・方法                  算数科における数量や図形の基礎的・基本的な技能の確かな定着を図るためには, 現在の職員構成や施設・設備に応じたもっとも効果的な学力向上への学習形態を工夫する。そして, 学年全体による少人数指導や学級での少人数指導とチーム・ティーチングを組み合わせ, きめ細かい指導を進める。しかし, 少人数指導・TT等はいくまでも手段であって目的ではない。</p>
--------	--

チーム・ティーチング配當時数

	3 年	4 年	5 年	6 年
標準時数	150	150	150	150
TT 配當時数	70	70	70	70

(1年・2年は実施していない)

少人数指導

少人数指導はチーム・ティーチング担当教員と学年の担任2名で3名による学年単位の少人数指導と、学級担任とチーム・ティーチング担当教員による学級単位の少人数指導が可能である。少人数指導は前時のポストテストや本時のレディネステストの結果を基にして、児童自身の判断でコースを選択できるようにする。コースは、らくらくコース、チャレンジコース、のびのびコースを設定して学習を進める。コースは固定的でなく、楽しく学ぶ意欲や成就感が得られるようなコースへ児童の判断や指導者の支援で、その子に合ったコースへ進めるようにする。もし、自分に合わないコースを選んだ児童もそのコースを体験してみて、よりわかる喜びや楽しい学習ができるコースを選べるように支援する。

チーム・ティーチング

チーム・ティーチングの指導では、各学級の担任とチーム・ティーチング担当教員の2名で学習を進め、一斉指導の後、学級内で3コースを設定し、ポストテストで進むコースを決め、自分に合った学習を進める。

平成  
15  
年度

テーマ

考える力を育てる学習指導

標準学力検査の結果や少人数指導を通して、本校の児童は「文章問題が苦手である」や「見通しを立てて考えることが苦手である」ことがわかってきた。そこで、「確かな学力」の向上を図るためには、「考える力」を育てる必要があるということで、テーマを「考える力を育てる学習指導」とすることにした。

研究の見通し

算数科において「考える力が育つ」とは、考える視点が増えることである。たとえば問題へ働きかけていく中で、その子が今までもてなかった考え方ができるようになったり、様々な考え方で解決しようとしたり、新しい問題を見つめようとしたりすることである。

一人一人の子どもの学びから出た自分や友達の考えを集団で「たずね合い」「認め合い」「つながり合う」コミュニケーション活動をする中で、比較しながら、自分のわかり方や考え方を見直し、考えを深め、新しい考えを獲得していく。それがより確かな考えとなり、新たな「基礎・基本」となったとき、「考える力」が育っていくと思われる。

研究の内容・方法

(1)「考える力を育てる」ための取り組み

絵や図に表すこと

「絵や図に表すこと」により、答えに対する見通しがもてるようにしている。

問題づくり

「問題構造の理解力」と「文章表現力」を高めるために必要な問題づくりに継続的に取り組んでいる。

考える力を育てる「体験」

劇化による問題提示や、教具等による具体的操作を導入して、体験を通じた活動を大切にしている。

考え方の練り上げ

これまで身につけてきた知識や技能を用いて、考えたことを発表したり、友達とのたずね合い、認め合いの中で、正しい方法やよりよい方法を見つけることをめざしている。

(2)個に応じた指導を充実させるための取り組み

チーム・ティーチングによる指導

- ア ふつうのティーム・ティーチング（１～５年算数科）  
（１年音楽科、１年体育科）
- イ コース別指導（習熟度別・課題別）（３～４年算数科）  
少人数グループ指導（６年算数科）  
教科担任制（３～６年音楽科、５～６年理科）
- （３）基礎・基本の定着を図る指導  
読書タイム（始業前）  
チャレンジタイム（始業前）・・・計算・漢字・視写  
補充学習（放課後）

平成  
16  
年度

テーマ （仮）考える力を育てる算数科の学習指導  
－体験や基本的な生活能力を生かして－

「考える力」は算数科だけではないが、算数科における「考える力」がまだじゅうぶんに育っているとはいえないので、平成16年度においてはとくに「算数科の」という言葉を入れ、算数科にしぼって研究を進めることにした。また、とりわけ指導を通して、層的な学力観での体験や第一層の基本的な生活能力が大切であることがいっそう見えてきたので、それをサブテーマとして、新たに付け加えた。

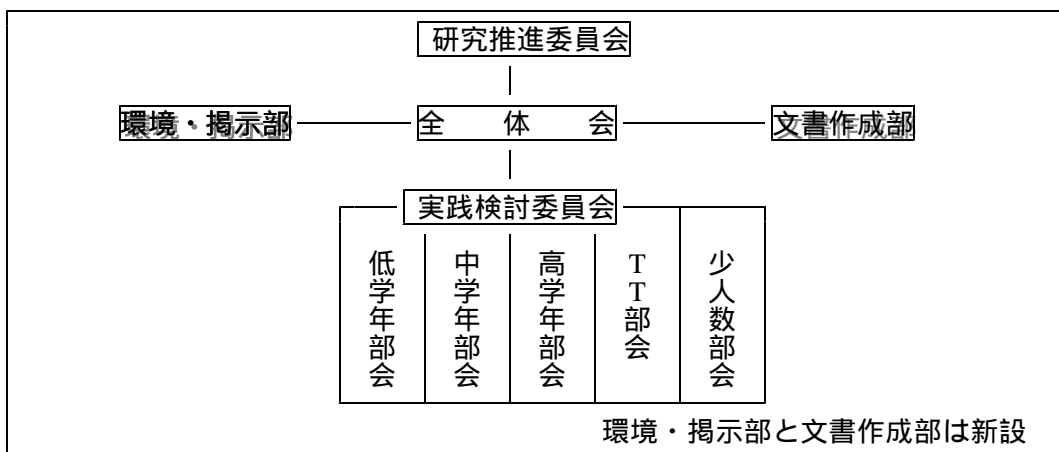
研究の見通し  
平成15年度の課題をふまえ、平成15年度の取り組みを充実・発展させる方向で、研究していく。

研究の内容・方法  
（１）「考える力を育てる」ための取り組み  
絵や図に表すこと  
問題づくり・・・つくった問題を教材として活用する  
考える力を育てる「体験」・・・層的な学力観での体験や第一層の基本的な生活能力との関連  
考え方の練り上げ・・・コミュニケーション活動

（２）個に応じた指導を充実させるための取り組み  
ティーム・ティーチングによる指導・・・T2による個別学習、評価活動  
コース別による少人数指導（習熟度別・課題別）・・・教材開発、時間配分  
教科担任制による指導・・・音楽科、理科  
発展学習・・・理解度の進んだ児童への対応  
よくわかるように教える活動の導入  
難易度の高い教材による自主学習（教材準備）

（３）基礎・基本の定着を図る指導  
読書タイム（始業前）  
チャレンジタイム（始業前）・・・計算、漢字、視写  
放課後学習・・・課題克服  
従来の放課後指導の充実・延長  
児童同士で教え合う活動も導入

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

分かる喜びや解く楽しさを味わうことで、問題に意欲的に取り組む児童がふえてきた。  
 授業でのコミュニケーション活動を通して、児童が考えを出し合い認められることに喜びを感じ、多様な考え方をする児童がふえてきた。  
 ティーム・ティーチングの導入により、進んで質問をする児童がふえ、授業の活性化につながってきた。  
 ティーム・ティーチングや少人数グループ指導を導入することにより、一人一人のつまずきに対し、より細かな指導ができるようになった。また、複数の教員の目で見ることにより、幅広く児童の考え方のよさを取りあげることができるようになってきた。  
 複数の教員で取り組むことにより、教材研究の中身が深まった。  
 指導を通して、層的な学力観での体験や第一層の基本的な生活能力が大切であることがいっそう見えてきた。  
 平成16年1月実施の算数CRTの結果からは次のようなことがいえる。  
 数学的な考え方

		1年	2年	3年	4年	5年	6年
得点率	本校	79.2	73.3	67.9	69.3	55.8	56.8
	全国	81.0	71.4	71.2	60.7	55.5	57.6
A	本校	85%	67%	48%	61%	34%	29%
	全国	81%	60%	54%	41%	34%	30%
B	本校	15%	23%	21%	18%	18%	32%
	全国	14%	28%	27%	28%	27%	35%
C	本校	0%	10%	31%	22%	48%	38%
	全国	4%	12%	19%	31%	39%	34%

数学的な考え方は、得点率で見ると、1年・3年・6年がわずかに全国平均を下回っているものの、他の学年は全国平均を上回っている。特に4年は大きく上回っているが、それはAランクの児童が全国平均より20%も上回っているからだろう。1年と2年もAランクの児童が全国平均より上回っている。  
 一方、Cランクの児童を見ると、3年・5年・6年で全国平均を上回り、下位の児童もまだまだいるということがいえそうである。特に3年の31%という数字は反省材料だろう。  
 一定の取り組みの成果が見られるものの、まだまだ不十分さも残しているといわざるをえないだろう。

2. 今後の課題

考える力を育てるためには、家庭や地域との連携をこれまで以上に深め、生活体験や社会体験を豊かにすることが大切である。  
 層的な学力観での体験や第一層の基本的な生活能力が大切であるので、その点を意識して指導する必要がある。  
 指導内容や方法、児童理解のために、教員間の打ち合わせに必要な時間の確保に工夫が必要である。  
 児童の教え教えられる関係を大切に、たずね合い、認め合い、つなぎ合う活動をより充実させる必要がある。  
 T・T指導におけるT1とT2の関わり方などの指導方法の工夫については、これからも研究を重ねていく必要がある。  
 一人一人に応じた教材を作成する時間が不足しがちだった。特に発展教材は手がかりが少なく、作成に苦労している。  
 友達に教えることや発展教材への取り組みなど、学力上位の児童の力をさらに伸ばすための方策も必要である。

6年生では、算数科のみ2学級の児童を3組に分け、少人数グループ指導を実施したが、次の点がむずかしかった。

- ・同じ時間に行わなければならないこと
- ・打ち合わせの時間の確保
- ・教員間の評価規準の一致
- ・教室や教員の確保

#### 学力等把握のための学校としての取組

- ・定期的な学力調査の実施  
平成16年1月（CRT算）に実施  
「観点別学習状況」「評定」到達度診断、1年後の伸びの把握のため  
平成14年5月（NRT算・国）、平成15年3月（NRT算・国）にも実施、
- ・定期的な計算や漢字テストの実施  
月1回程度  
計算や漢字の定着度の把握のため

#### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・研究発表会（公開授業・小冊子「指導案集」および「研究のまとめ」の刊行・取り組み説明・協議）の開催  
平成15年11月20日、鳴門市林崎小学校にて、対象は鳴門・板野地区等の教職員、会の目的は研究成果の発表・普及
  - ・フロンティアティーチャーとして、研究成果をまとめ、「平成15年度 鳴門市教育論文」募集に応募（平成16年1月）
  - ・県教委より要請のあった「個に応じた指導のための教材・指導資料集（仮称）」にワークシート等5点を提出  
県教委のHPに「教育用コンテンツ」として平成16年3月下旬から公開予定
  - ・「基礎基本の定着を図る数学教育講座」（平成16年7月23日、県研修センター）において、「考える力を育てる学習指導」を中心に本校の取り組みを発表する予定
- など

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                  体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無